

子どもの森通信

第5号 2008年5月
発行：特定非営利活動法人子どもの森
宮崎県東臼杵郡門川町城ヶ丘2-2
事務局 TEL/FAX：050-3427-1102
Mail：office@kodomonomori.info
http://www.kodomonomori.info



【 ツブラジイ 】ブナ科シイ属

西日本に多い。ドングリは2年型、長さ0.6~1.3cmで、スダジイより丸く小さい。別名コジイ。ツブラは丸いという意味

2008年5月門川町にて撮影

環境と共生するために！

物の豊かさが満たされた今日、わたしたちはどこに向かうのでしょうか。真の快適な暮らしには、豊かな自然環境が基盤となります。環境に配慮する生活を最優先し、自然と共生する知恵やくふうが必ず必要です。

半世紀前までは、わたしたちの社会も、家族や地域に暮らす人々が助け合いながら日常生活を送っていました。その当時は、便利な道具も少なく、協働を通じて人間の絆を深め、補完しあう関係が基盤となつて生活を成り立たせていたのです。自ずと子育てや介護、生活環境の整備などは、地域の人々の共同の仕事として定着していました。

しかし、第二次産業の工業化の進展にともない、人々が都市に集まり、暮らしは合理化や分業化が進み、都市住民が増加していきました。同時に情報化も進み、山村や漁村で暮らす人々の意識や生活行動も変容し都市の文化が浸透してきました。この潮流はますますスピードを増していくでしょう。効率よく合理化された暮らしは、それなりに便利で快適です。労力は軽減され、さまざまな暮らしの断片をお金で購入でき、地球の裏側から運ばれてきた食材で食卓を彩り豊かにしてくれています。他方、世界に目を向けると、熱帯林は減少し、貧困と飢餓に苦しむ人々は増え、ゴミの大量廃棄が増え、自然や生活環境を著しく悪化させています。

自分だけの生活が満たされればよいといった自己中心的な考えは、これからは許されず、現在のような生活がそのまま続くはずありません。速さや大きさ、お金や物を追い求めた結果、経済面での生活

は安定しましたが、環境や人間関係に関しては課題が露呈し始めているのです。

元来、日本人は自然と共生しながら暮らし、自然から学び自然を享受した暮らしが根付いたており、生活の知恵は代々受け継がれ、家庭や地域社会において固有の文化が形成されてきました。

しかし、残念なことに、今日のわたしたちの暮らし方は目先のことに追われ、乱雑になり、大切なモノを忘れてしまったようです。そのひとつの現れ方が環境問題なのです。

まぎれもなく、わたしたちは生き物であり、動物です。森は人間を必要としていませんが、人間は森なくして生きていきません。わたしたちは、原点に戻り暮らし方を見直す時期を迎えているのです。

自然と将来への責任
将来の世代に豊かな自然を残し、未来にわたつて自然を現在と同じように利用できるようにするために、わたしたちが行動できることは何かを考えてみましょう。

わたしたちは、循環型社会の形成に向けて、それぞれが有する責任を適切に果たしていかなければなりません。またこの責任や役割の分担は、同一世代に限られるものではなく、将来世代に対しても負うべきものと考えられます。

好むと好まざるに関わらず、わたしたちの行動は、将来世代のあらゆる選択に大きな影響を及ぼします。次の世代が、資源制約に端を発する社会不安や廃棄物問題に苦しむことの無いよう、わたしたちは、叡智を結集し、信頼に基づく連携と協働によつて、循環型社会の形成に向けた取組を加速していきます。

デイキャンプ



ネイチャーゲーム



昼食（焼き焼きソーセージ作り）

門川高校演習林研修棟周辺（西門川山中）/7月28日

今年のデイキャンプは、門川高校の協力で門川高校演習林研修棟周辺での実施とボランティアスタッフとして3人の高校生と先生1人が参加してくれました。子どもたちへの環境教育の一環として、また成人には環境への啓発の場として、自然環境の中で遊びながら環境について学びました。ネイチャーゲームは、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然への共感を育む活動です。ネイチャーゲームの案内人は、フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会、古田栄子さん、黒木政則さんです。今回は、《おなじものみつけよう》《ジャンケン落ち葉あつめ》《フィールドピング》《音いくつ》の4つのゲームを参加者に体験してもらいました。お昼は、参加者全員で飯盒炊飯、焼き焼きソーセージ作り、食後は、ツイストパン、自然素材を使って工作をおこないました。

参加者の感想

- ・今日は楽しく一日を過ごすことができました。森の中に入り虫や葉っぱを実際に触り、魚を捕まえたりと子供もたくさんの経験ができたと思います。昼食のソーセージやパンも本当に美味しかったです。このきれいな自然を、大切にしていけないといけないと思いました。
- ・自然と触れ合える体験ができた良かった。身近なもので工作もできることも解った。そして、自然の大切さを学んだ。今日は楽しかったです。

ツイストパン



環境プログラム 2008年4月～2009年3月

森の中等での環境啓発実践活動にこだわり、楽しみながら遊びながら、環境について考えてもらう活動です

バードウォッチング

五十鈴川河口/12月16日
晴天の下（風が冷たかったです）、冬の探鳥会を実施しました。講師は、猪崎悦子さん（日本野鳥の会宮崎県副支部長）です。8時20分からオリエンテーション、猪崎さんから双眼鏡の使い方の説明、自然体験活動での注意点の話があり、いよいよ野鳥探しの開始です。

探鳥会後は、五十鈴川周辺のゴミ拾いをおこないました。

室内にて、猪崎さんから野鳥の話をしていただきました。



確認できた野鳥27種

森とあそぼう

こどもの森フィールド/11月25日
こどもの森雑木林にて、ネイチャーゲームとドングリ工作を実施しました。工作指導は、飯干喜恵さんと横山理事です。



子どもたちの作品



今回のネイチャーゲームは《ジャンケン落ち葉集め》《森の美術館》《音いくつ》《森の色あわせ》《木の鼓動》5種類。自然案内人は、古田栄子さん、野添美智代さんです。



しいたけ栽培体験（五十鈴小学校）



★6月21日

5年生が仮伏せ状態にしていたほだ木をグランド横の山斜面に、ムカデ組みで本伏せ状態にしました。

★10月24日

6年生が2006年2月28日に実施した椎茸菌の原木への接種後、本伏せ状態にしていたほだ木のほだ起こしです。秋の収穫を前に、グランド横の山手前に、ほだ場を設置しました。全長10mと5mのほだ場作りを行いました。

★2008年1月10日

五十鈴小学校の校長先生から連絡がありました。椎茸が収穫でき、家庭科調理実習でバター焼きにしたそうです。

環境問題を考える講演会

2008年2月2日



西都市在住ロキシーヒル酋長の圖師哲雄さんに「豊かな森づくりをめざして」と題して講演をしていただきました。圖師さんは、森づくり活動を通して森林環境問題や青少年の環境教育等に取組んでいます。ロキシーヒルと圖師さんを紹介する三つのTV番組を20分位参加者に見てもらった後に、圖師さんの講演が始まりました。約30分の講演が終ってからは、参加者と圖師さんとの間で質疑応答がおこなわれました。

森づくり

こどもの森：地球温暖化防止と荒れた森林の保全を目的として、杉伐採地後の私有地に、センダン・イチイガシ・ホルトノキ・スタジイ・ヤマボウシ・ヤマモモ・イロハモミジ等の広葉樹を植樹しました。植樹地は、杉と広葉樹の複層林となります。現在は、下草刈などの育林を実施しています。
GOCANの森：台風で崩壊した山斜面に植林されていた杉が流された門川高等学校演習林の自然環境の復元を図り、水源の涵養や災害防止など森林の持つ公益的機能の再生させるため、門川高等学校生徒と一緒に、五感で森林自然を感じることが出来るように整備をしています。

続・森林の再生活動（GOCANの森）

8月25日

植樹後の下草刈りとフィールド整備を森林環境税からの活動資金助成を受けて実施します。門川高校と一般参加者を含めて9人の参加者で実施しました。



森林整備（こどもの森）

9月9日

下草刈りと杉丸太のハーフカットを行いました。ハーフカットした杉丸太は、環境プログラムにおいて、椅子またはテーブルとして使用します。



森林整備（こどもの森）

6月9日

1年2ヶ月前に植樹をした「こどもの森」約0.4haの下草刈りを実施。会員5人とサポーター2人、山林所有者2人の計9人で、刈払い機と造林鎌で9時30分から12時までの作業でした。



続・森林の再生活動（GOCANの森）

2008年4月5日

3月に予定していた東屋（展望小屋）設置が、雨その他の理由で延びのびとなっていました。ようやく実施することができました。東屋は、門川高校で製作して、今日は設置場所で組み立てました。門川高校の校長先生も活動に参加してくれて、未完成だった階段も作れました。ようやく今年度の続・森林の再生活動が最終回を迎えることができました。



続・森林の再生活動（GOCANの森）

2008年2月10日

歩道と階段の設置を行いました。東屋設置場所まで歩道は延びましたが、残念ながら予定時間までに途中の階段が完成しませんでした。やはり、前回は雨で中止になったのが痛かったです。未完成部分については、次回の東屋設置の時に作成します。



続・森林の再生活動（GOCANの森）

2008年1月20日

天候不良のため作業は中止となりました。雨の中で、門川高校生続・森林の再生活動メンバーの7人と一緒に、次回におこなう作業の確認をしました。歩道と階段の設置場所を決めました。



平成20年度活動計画

月	事業名	予定日	場所	備考
5	第7回通常総会	17(土)	森の学舎	
6	森づくりボランティア協議会総会 " 研修	21(土)	森の学舎	研修：熊本大学教 徳野貞雄氏 「限界集落」(仮題)
		22(日)		
7	森林整備	5(土)	こどもの森	下草刈り
	修繕・改修	13(日)	森の学舎	グランド草刈り
	デイキャンプ準備 修繕・改修	27(日)	森の学舎	ネイチャーゲーム下見 昼食作りの準備
8	デイキャンプ	3(日)	森の学舎	フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会
	修繕・改修	24(日)	森の学舎	
9	森林整備	7(日)	こどもの森	下草刈り
	森林整備	21(日)	GOCANの森	下草刈り
10	五十鈴小学校での椎茸栽培	未定	五十鈴小学校	ほだ木起こし
	環境文庫オープン準備	19(日)	森の学舎	
	環境文庫オープン 環境問題を考える講演会	25(土)	森の学舎	環境問題を考える講演会の内容 講師は未定
11	森とあそぼう準備 修繕・改修	9(日)	森の学舎	ドングリ工作の準備
	森とあそぼう(ドングリ工作)	16(日)	森の学舎	
	森林整備	下旬	GOCANの森	歩道・階段の整備
12	森林整備	中旬	GOCANの森	歩道・階段の整備
2	森林整備	上旬	GOCANの森	歩道・階段の整備
3	植樹	29(日)	GOCANの森	17、18年度ドングリ苗木

森林整備の作業時間は約3時間(小雨決定)。他に「みやざき森づくりボランティア協議会」活動があります。活動情報発信のためにWebページの運営と印刷紙の発行。椎茸ほだ場は、定期点検と収穫を実施します。環境文庫「森の学舎」は、土・日開館。ただし、本会の活動と重複した場合は閉館します。

★助成金の決定★
平成19年度
*宮崎県環境森林税
*門川町「まちづくりプレイヤー」支援事業
*環境文庫「森の学舎」の運営と印刷紙の発行
*環境問題を考える講演会の内容
講師は未定
*環境文庫「森の学舎」の運営と印刷紙の発行
*環境問題を考える講演会の内容
講師は未定
*環境文庫「森の学舎」の運営と印刷紙の発行
*環境問題を考える講演会の内容
講師は未定
*環境文庫「森の学舎」の運営と印刷紙の発行
*環境問題を考える講演会の内容
講師は未定



他団体との協働



2008年3月23日
上鹿川キャンプ場
ひめじら交流会&植樹祭
延岡アースディのプログラムのひとつとして、MFV会の主催活動です。写真は、アースディ実行委員長の田中さんと延岡ボーイスカウトの子ども達です。台風災害後に上鹿川で環境調査したことを発表しました。



2008年2月15日
諸塚村中央公民館
川や海など水辺の環境に関する情報交換会
水辺の環境を保全するため、耳川、五十鈴川ブロックを日向市ふるさと自然を守る会が主幹となり実施している事業です。横山理事が参加し、子ども達の活動を報告しました。



12月8日
生目の杜運動公園
宮崎市環境フェア
(同時開催)地球温暖化防止活動推進フェスティバル2007
みやざき森づくりボランティア協議会で「森のことをもっと知ろう」をテーマにパネル展示、どんぐり工作、クイズを行いました。
参加団体：MFV会、水源の森づくりをすすめる市民の会、宮崎グリーンバレーの会、子どもの森



6月16日・17日
日向サンパーク・オートキャンプ場
平成19年度みやざき森づくりボランティア協議会総会・研修
研修：広葉樹の森づくり講話
今年度担当の日向市ふるさと自然を守る会の植樹地の見学も行いました。

森の学舎

活動拠点が多岐にわたることで、子ども達の活動もより充実していきくとが期待できます。
純

旧西門川小学校松瀬分校を子どもの森の活動拠点として、門川町より平成19年11月1日付で無償譲与されました。(土地は有料借用です)松瀬分校は、1896年(明治29年)開校の小学校(川内尋常小学校松瀬分校)で、2000年4月に児童数の減少で休校、その後2006年4月に廃校となりました。19年2月に、門川町が廃校の有効活用団体を公募して、子どもの森がその活用団体に選ばれ、校舎2棟の譲与先となりました。子どもの森は、4年前にも松瀬分校を廃墟・更地にしたくなく、また活動の拠点として活用することを、町に要望したのですが、借りることができなかつたことがあります。



写真/4月校庭側より撮影